



じんけんひろば
No. 10

大事なものは同じ

早いもので、私がこのコーナーを担当して10回目になります。私はこれまでにたくさんの人と出会い、たくさんのことを学んできました。第1回のKさん、長野で出会ったM・Yさん、高知のM・Mさん、そして同和教育をたくましく推進してきたたくさんの教師たち。一人ひとりの出会いが私を育て、生きる道を照らしてくれました。そういった先人や仲間の存在は何ものにも代え難いものです。第1回のKさんは、正しく学んで正しく伝えることを子どもたちにも私たちにも伝え、学ぶことと伝えることの大切さを教えてくれました。

今回はKさんを父とするなら、母とも言うべきM・Yさんのことを書きたいと思います。

M・Yさんは、女性史研究者、作家として著名な方でした。彼女には大きな目標がありました。それは、彼女が生涯かけて取り組む課題として女性(差別)、沖縄(差別)、部落(差別)がありました。そして、最初に手がけたのが、女性で、(1982(昭和57年だったと思いますが・・・)長野県の自身の家の敷地に20畳程度(私の目算です)の家を建てて、誰でもいつでも集い、自由に議論できる施設を造りました。それが「歴史を拓くはじめのいえ」でした。そこはすべて自主的に女性たちが運営する集いでした。その5回目の夏、議論の中で部落差別発言が出たのでした。そのとき四国から私の運動仲間、高知のM・Mさんなどが参加していて、発言の差別性を指摘して結論が出ないまま、四国へ帰ったそうです。翌年、私は仲間のS・Eさんの誘いで初めて参加することになりました。高知と徳島からの参加者は概ね前年と同じ人だったように思います。高知のM・Mさんたちもそうでした。四国からの参加者は重い気持ちで向かっていきました。それは、「女性問題を語っているところで、再び部落問題を出してその場を壊してしまわないか」という思いでした。M・Yさんにそのことを伝えると、「それで参加者が減るようならそれはそれでいい。私には女性と同じように沖縄も部落も大事です。」と言いました。それで私たちは少し安心して参加することができました。心配していた差別発言をした当事者も参加してくれていました。私たちは誰一人その方を非難しなかったし、今でもその方は長野で中心的に活動してくれています。

右の写真は、その「はじめのいえ」のふすまに書かれていた言葉です。これは私の大好きな言葉です。(文：森本)

ほんがよめてもじがかけても
ちえのないかたがおこい
ちえをまなぶぎろんだ
りくつはだれでもしっている
これはかいほうではな

見頃ですよ



藍住町バラ園

5月の予定

将棋教室講座生募集中!!

講座仲間もできて楽しいですよ!

講座名	日	時
しあわせポティ	毎週月曜日	13:30~15:00
自力整体教室	毎週金曜日	13:30~15:00
将棋教室	毎週水曜日	13:00~16:30
健康教室	5月7日(木)	9:30~11:30
料理教室	5月19日(火)	9:30~
ハンドメイド	5月25・26日(月・火)	10:00~16:30

